

都市再生整備計画 事後評価シート

天童高原地区

平成29年11月

山形県天童市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山形県		市町村名	天童市		地区名	天童高原地区			面積	232ha	
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	466.6百万円	国費率	0.40			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路事業(仮 天童高原線)、公園事業(天童高原県立自然公園)、地域生活基盤施設(ビューポイント案内板)、高次都市施設(地域交流センター)								
			提案事業	地域創造支援事業(休憩施設整備)、事業活用調査(事業効果分析)、まちづくり活動推進事業(NPO活動支援)								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	なし		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	まちづくり活動推進事業(NPO活動支援)		NPOが指定管理者となり、NPOの体制が整って支援の必要性が低くなったため。			指標3「天童市民の天童高原満足度」に多少影響すると考えられるが、指標及び数値目標は据え置く。			
	新たに追加した事業		基幹事業	公園(大型遊具)		幼稚園、保育園、小学校の遠足等で利用されることが多く、市民からの需要の高まりがあり追加した。			指標3「天童市民の天童高原満足度」に影響するが、他の要因で変動する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く。			
提案事業			地域創造支援事業		キャンプ場施設の更なる機能充実を図るため。			指標1「キャンプ場周辺利用者の減少率」に影響するが、他の要因で変動する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く。				
交付期間の変更		当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響							
		変更	平成 年度～平成 年度									
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	キャンプ場周辺利用者の減少率	%	-18.6%	H18-22	0.0%	H24-28	83.7%	○	あり なし	キャンプ場の整備により周辺利用者数が大幅に増えて、目標の達成となった。整備前は年々利用者数が減少していたが、天童高原を整備したことによりキャンプ場としての魅力が増え、利用者増加につながったものと考えられる。	-
	指標2	スキー場利用者の減少率	%	-10.9%	H18-22	-1.0%	H24-28	-12.6%	×	あり なし	評価値初年度(平成24年度)の利用者が多かったため、目標値のハードルが高いものとなってしまったことに加え、気象条件の影響を受けたこともあり、利用者数が伸びず、目標値の達成とはならなかった。一方で、事業期間の年間平均利用者数は増加しており、一定の整備効果が表れていると言える。	平成30年4月
指標3	天童市民の天童高原満足度	%	56.3%	H24	60.7%	H28	61.2%	○	あり なし	天童高原の整備に伴い、天童高原を訪れたいと思う市民が増え、指標目標の達成となった。市民にとって以前より魅力を感じるような天童高原になったことで、目標の達成につながったと考えられる。アンケート実施時期以降の整備箇所もあり、全ての整備が完了すれば満足度はさらに上昇するものと思われる。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	天童高原イベント入れ込み客数	人	8,100	H24	/	12,198	/	/	平成24年度には4つのイベントで延べ8,100人の入れ込み客数があったが、平成26年度から秋に「そは花まつり」が新たに開催され、イベントの入れ込み客数が全体で約1.5倍に増加した。各イベントの入れ込み客数を見ても、平成24年度と比較して全てのイベントで増加しており、天童高原における交流の拡大、活性化が確認できる。イベントの浸透、増加に伴い、天童高原を訪れる観光客数も増え、「天童高原の四季折々の資源に磨きかけ、付加価値を高めるとともに、多様な分野と連携し、交流人口の拡大を図る」という目的を満たしていると考えられる。	-	
	その他の数値指標2	キャンプ場・スキー場利用者の減少率	%	-13.8%	H18-22	/	7.6%	/	/	キャンプ場とスキー場の利用者数を合計した年間の利用者数を見ると、従前値(H18-H22)では-13.8%と減少傾向にあったが、評価値(H24-H28)では7.6%と増加傾向に転じている。指標②では気象条件の影響もあり、スキー場の利用者数だけでは増加とはならなかったが、年間を通じた合計の利用者数は確実に増えており、整備の効果が表れていると言える。	-	
その他の数値指標3	スキー場利用者の減少率(社会資本総合整備計画における数値指標目標)	%	-10.9%	H18-22	0.0%	H24-28	-12.6%	×	あり なし	評価値初年度(平成24年度)の利用者が多かったため、目標値のハードルが高いものとなってしまったことに加え、気象条件の影響を受けたこともあり、利用者数が伸びず、目標値の達成とはならなかった。一方で、事業期間の年間平均利用者数は増加しており、一定の整備効果が表れていると言える。	平成30年4月	
4)定性的な効果発現状況	市民アンケートでは、今後の天童高原の整備に期待する意見が多く寄せられ、市民の天童高原に対する意識の高まりが感じられた。											
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	住民参加プロセス		大型遊具完成イベント				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後もNPOなどと連携して、住民が参加できるような天童高原の施設を利用したイベントを企画・開催する。	
	持続的なまちづくり体制の構築		天童市天童高原にぎわいづくり懇談会の開催				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も継続した取り組みを行い、市民との意見交換を積極的に行い、地域一体となった整備を行う。	

様式2-2 地区の概要

天童高原地区(山形県天童市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値			
大目標:天童高原の豊かな自然環境を保全しつつ、天童高原の魅力をさらに向上させるため積極的な交流・連携を図り、市民が集い、楽しみ、学び合いながら人生の豊かさを実感し、賑わいを創出するまちづくりを行う。 ■市民が心身ともに健康で、充実した毎日を送るために学び、活動し、心と身体の健康の維持・増進が図られる安全・安心な環境づくり。 ■恵まれた自然環境を次世代に引き継いでいくために、自然景観や歴史・文化に配慮した資源・環境の保全・活用。 ■天童高原の四季折々の資源に磨きをかけ、付加価値を高めるとともに、多様な分野と連携し、交流人口の拡大を図る。	キャンプ場周辺利用者の減少率	単位: %	-18.6%	H18-22	0.0%	H24-28	83.7%	H24-28
	スキー場利用者の減少率	単位: %	-10.9%	H18-22	-1.0%	H24-28	-12.6%	H24-28
	天童市民の天童高原満足度	単位: %	56.3%	H24	60.7%	H28	61.2%	H28

まちの課題の変化

・天童高原の豊かな自然環境を生かし、市民が集い、楽しみ、学び合えるような環境は整ってきているが、まだ有効に活用されていないものも多い。今後は、施設の有効利用の促進を図るとともに、ソフト事業とも連携し天童高原の魅力をより高めることが重要である。
 ・自然環境に恵まれた天童高原の整備を行ったことで、「自然の魅力・価値」が向上しアピール性が高まった。今後は、豊かな自然環境やここでできる様々な体験をより多くの人に知ってもらい、何度でも訪れてもらえるような仕掛け作りや自然体験施設等との連携が必要である。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

・天童高原が新しく整備されたことを知らない市民が多いため、天童高原のPR活動を積極的にに行い、今まで天童高原を利用したことがない、新規利用者の拡大を目指す。
 ・気象条件の変化があっても、利用者数が落ち込まないような取組みをしていくことが望まれる。
 ・キャンプ場、スキー場を利用したイベントを開催し、利用者数のさらなる増加を目指す。
 ・整備した施設について継続的な維持管理を行い、天童高原の魅力が損なわれないような取組みを心がける。
 ・イベント開催などの盛り上がりが一過性なものとならないように、イベントと継続した取組みとを併せて実施していくことで魅力ある地域づくりに繋げていく。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6-当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7-事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8-評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9-有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(仮)天童高原線	150.0	道路の拡幅改良 L=1000m	10.0	道路の待避所整備 L=1000m、N=2箇所	平成26年計画の変更、事業量の見直しによる事業費の減少	指標3「天童市民の天童高原満足度」に影響するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
公園	天童高原県立自然公園	136.0	A=約50ha 東屋、ベンチ、展望デッキ、自然体験学習施設、広場、園路、休憩施設	258.7	A=約50ha 四阿、ベンチ、展望デッキ、自然体験学習施設、広場、園路、休憩施設、大型遊具	平成26年計画の追加、事業量の見直しによる事業費の増加	指標1「キャンプ場周辺利用者の減少率」、指標3「天童市民の天童高原満足度」に影響するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	情報板	4.3	ビューポイント案内板 N=4基	4.3	ビューポイント案内板 N=3基	事業期間・事業量の見直し	指標1「キャンプ場周辺利用者の減少率」、指標2「スキー場利用者の減少率」、指標3「天童市民の天童高原満足度」に影響するが、変更は軽微であるため指標及び数値目標は据え置く。	●	
高次都市施設	地域交流センター	147.0	A=1000㎡	147.0	A=1000㎡	変更なし	影響なし	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	達成度	事後評価	あり	なし		
指標1	キャンプ場周辺利用者の減少率	%	・H24年度からH28年度までの年間利用者数を計測する。	11.9%	H12-16	-18.6%	H18-22	0.0%	H24-28	モニタリング		モニタリング				
										事後評価	確定 ● 見込み	83.7%	事後評価	○		
指標2	スキー場利用者の減少率	%	・H24年度からH28年度までの年間利用者数を計測する。	-22.5%	H12-16	-10.9%	H18-22	-1.0%	H24-28	モニタリング		モニタリング				
										事後評価	確定 ● 見込み	-12.6%	事後評価	×		●
指標3	天童市民の天童高原満足度	%	・天童市民へのアンケート調査を実施し、値を計測する ・「天童高原の満足度」という設問について、天童高原に「訪れたい」と回答した人数の割合を算出する。 ・実施時期：平成28年7月1日～7月31日(有効回答数634)			56.3%	H24	60.7%	H28	モニタリング		モニタリング				
										事後評価	確定 ● 見込み	61.2%	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	キャンプ場の整備により周辺利用者数が大幅に増えて、目標の達成となった。整備前は年々利用者数が減少していたが、天童高原を整備したことによりキャンプ場としての魅力が増え、利用者増加につながったものと考えられる。	特になし
指標2	評価値初年度(平成24年度)の利用者が多かったため、目標値のハードルが高いものとなってしまったことに加え、気象条件の影響を受けたこともあり、利用者数が伸びず、目標値の達成とはならなかった。一方で、事業期間の年間平均利用者数は増加しており、一定の整備効果が表れていると言える。	スキー場の利用者数は、暖冬による積雪の影響など気象条件に左右される可能性が高く、年度ごとの利用者数に変動が大きい。このため、単年度の数値をもって評価値の基準にすることはリスクが大きく、整備効果が指標目標の達成につながらない可能性があることが分かった。
指標3	天童高原の整備に伴い、天童高原に訪れたいと思う市民が増え、指標目標の達成となった。市民にとって以前より魅力を感じるような天童高原になったことで、目標の達成につながったと考えられる。アンケート実施時期以降の整備箇所もあり、全ての整備が完了すれば満足度はさらに上昇するものと思われる。	特になし

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	天童高原イベント入れ込み客数	人	800	H20	8,100	H24	モニタリング			12,198	天童高原地区の整備に伴う効果として、天童高原で開催されるイベントの入れ込み客数の増加が見られることから、「天童高原の四季折々の資源に磨きをかけ、付加価値を高めるとともに、多様な分野と連携し、交流人口の拡大を図る」(目標)を表している指標としてふさわしいと考えられる。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	キャンプ場・スキー場利用者の減少率	%	-14.0%	H12-16	-13.8%	H18-22	モニタリング			7.6%	指標②スキー場利用者の減少率では、気象の影響もあり指標目標の達成はならなかったが、年間を通じたキャンプ場とスキー場の合計の利用者数に増加傾向が見られることから、指標②を補完するその他の指標として、天童高原の年間を通じた交流人口の拡大を図る指標として相応しいと考えられる。
							事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標3	スキー場利用者の減少率(社会資本総合整備計画における数値指標目標)	%	-22.5%	H12-16	-10.9%	H18-22	モニタリング			-12.6%	社会資本整備計画に記載した指標である。都市再生整備計画事業の効果が大きく影響を与えることから、その他の数値指標として記載する。
							事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・市民アンケートでは、今後の天童高原の整備に期待する意見が多く寄せられ、市民の天童高原に対する意識の高まりが感じられた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
大型遊具完成イベント	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	実施頻度：1回 実施時期：平成29年7月2日 実施結果：天童高原に大型遊具が完成したことを多くの市民に周知することができ、また、多くの市民に利用してもらうことで、天童高原の魅力が高まったことを実感してもらえた。	今後もNPOなどと連携して、住民が参加できるような天童高原の施設を利用したイベントを企画・開催する。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
にぎわいづくり懇談会を開催し、諸事業の企画・実施・運営等のまちづくり活動を進めていく。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	イベントや施設の管理方法などを討論し、天童高原に市内外から人が集まって賑わいが出るような天童高原のあり方について検討を行っている	天童市天童高原にぎわいづくり懇談会	関係機関や団体が主体となって継続的なまちづくり活動が行われるよう、市は側面支援を行う。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画天童高原地区事後評価検討委員会	経済部長、経済部農林課長、経済部商工観光課長、建設部建設課長、総務部市長公室室長補佐	第1回 平成29年7月31日	産業立地室 産業立地係 (都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3		その他の指標1		その他の指標2	
指標名		キャンプ場周辺利用者の減少率		天童市民の天童高原満足度		天童高原イベント入れ込み客数		キャンプ場・スキー場利用者の減少率	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(仮 天童高原線)	◎	キャンプ場の整備により周辺利用者数が大幅に増えて、目標の達成となった。整備前は年々利用者数が減少していたが、天童高原を整備したことによりキャンプ場としての魅力が増え、利用者増加につながったものと考えられる。	◎	天童高原の整備に伴い、天童高原を訪れたいと思う市民が増え、指標目標の達成となった。市民にとって以前より魅力を感じるような天童高原になったことで、目標の達成につながったと考えられる。アンケート実施時期以降の整備箇所もあり、全ての整備が完了すれば満足度はさらに上昇するものと思われる。	◎	平成24年度には4つのイベントで延べ8,100人の入れ込み客数があったが、平成26年度から秋に「そばまつり」が新たに開催され、イベントの入れ込み客数が全体で約1.5倍に増加した。各イベントの入れ込み客数を見ても、平成24年度と比較して全てのイベントで増加しており、天童高原における交流の拡大、活性化が確認できる。イベントの浸透、増加に伴い、天童高原を訪れる観光客数も増え、「天童高原の四季折々の資源に磨きをかけ、付加価値を高めるとともに、多様な分野と連携し、交流人口の拡大を図る」という目的を満たしていると考えられる。	◎	キャンプ場とスキー場の利用者数を合計した年間の利用者数を見ると、従前値(H18-H22)では-13.8%と減少傾向にあったが、評価値(H24-H28)では7.6%と増加傾向に転じている。指標②では気象条件の影響もあり、スキー場の利用者だけでは増加とはならなかったが、年間を通じた合計の利用者数は確実に増えており、整備の効果が表れていると言える。
	公園(天童高原県立自然公園)	◎		◎		◎			
	ビューポイント案内板 地域交流センター	◎ ○		◎ ◎		◎ ◎			
提案事業	休憩施設整備	◎		◎		◎		◎	
	野営場施設整備	◎		◎		◎			
	事業効果分析	—		—		—			
関連事業	天童高原環境整備事業	○		◎		○		○	

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標3	その他の指標1	その他の指標2
	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な維持管理をしていくことで、キャンプ場のリピーターを確保していただくことが大切と思われる。 ・キャンプ場が新しく整備されたことを多くの人々に告知し、今までキャンプ場を利用したことがない、新規利用者の拡大を目指す。 ・キャンプ場を利用したイベント等を開催し、利用者の減少を防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備した施設について維持管理を行い、天童高原の魅力が損なわれないような取り組みを心がける。 ・天童高原の魅力を実感できるようなイベントを開催し、市民がまた訪れたいと思うような取り組みを心がける。 ・イベント開催などの盛り上がりが一過性なものにならないように、イベントと継続した取り組みとを併せて実施していくことで魅力ある地域づくりに繋げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の事業で天童高原の整備を行ったことで、イベントに参加しやすい環境が整い、全てのイベントで入れ込み客数が増加している。 ・今後は、それらのイベントを継続して行っていけるように天童高原全体として、積極的にアピールを行い、リピート客・新規観光客の増加を図る取組みを行っていくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な維持管理をしていくことで、キャンプ場およびスキー場のリピーターを確保していただくことが大切と思われる。 ・天童高原全体が新しく整備されたことを多くの人々に告知し、今までキャンプ場およびスキー場を利用したことがない、新規利用者の拡大を目指す。 ・キャンプ場およびスキー場を利用したイベント等を開催し、利用者の減少を防ぐ。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標2			その他の指標3												
指標名		スキー場利用者の減少率			スキー場利用者の減少率 (社会資本総合整備計画における数値指標目標)												
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類				
基幹事業	道路(仮 天童高原線)	△	評価値初年度(平成24年度)の利用者が多かったため、目標値のハードルが高いものとなってしまうことに加え、気象条件の影響を受けたこともあり、利用者数が伸びず、目標値の達成とはならなかった。一方で、事業期間の年間平均利用者数は増加しており、一定の整備効果が表れていると言える。	Ⅲ	△	評価値初年度(平成24年度)の利用者が多かったため、目標値のハードルが高いものとなってしまうことに加え、気象条件の影響を受けたこともあり、利用者数が伸びず、目標値の達成とはならなかった。一方で、事業期間の年間平均利用者数は増加しており、一定の整備効果が表れていると言える。	Ⅲ										
	公園(天童高原県立自然公園)	△															
	ビューポイント案内板	△															
	地域交流センター	△															
提案事業	休憩施設整備	△							△								
	野営場施設整備	△							△								
	事業効果分析	-							-								
関連事業	天童高原環境整備事業	△							△								

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<ul style="list-style-type: none"> ・気象条件の変化があっても、利用者数が落ち込まないような整備をしていくことが望まれる。 ・スキー場を利用したイベントを開催し、利用者数の増加を目指す。 ・天童高原スキー場をアピールするような告知等を行い新規利用者の拡大を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象条件の変化があっても、利用者数が落ち込まないような整備をしていくことが望まれる。 ・スキー場を利用したイベントを開催し、利用者数の増加を目指す。 ・天童高原スキー場をアピールするような告知等を行い新規利用者の拡大を図る。 		
------------------	---	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画天童高原地区事後評価検討委員会	経済部長、経済部農林課長、経済部商工観光課長、建設部建設課長、総務部市長公室室長補佐	第1回 平成29年7月31日	産業立地室 産業立地係 (都市再生整備計画担当課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
自然や地域資源を活用し、心身ともに充実した時間が過ごせるような環境整備を図る。	遊びの広場として、夏ソリすべり、ターザンロープ、草地広場、大型遊具を整備したことで、自然に触れ合いながら子供から大人まで充実した時間が過ごせるような環境整備を行うことができた。	・整備により施設が整ったが、ソフト事業とも連携しより有効な施設の活用を図ることが重要である。	・アンケート調査結果によると、キャンプ場やスキー場があるのは知っているが、新しく整備したことを知らなかったという意見が多く、認知度が低いことが確認された。 ・施設の老朽化を防ぐため、適正な維持管理を行っていく必要がある。
自然環境の保全と良好な景観を維持しながら、地域資源としての有効活用を図る。	自然体験施設として、キャンプサイト、炊事場・洗い場、あずま屋、園路を整備したことで、自然環境と景観を景観を維持し、地域資源を有効活用できるような整備を行うことができた。	・自然体験施設としての環境は整ってきているが、まだ有効に活用されていないものも多い。今後は未活用の地域資源を有効に活用した取組みを行う必要がある。	
四季の特徴を活かし、一年を通して魅力が溢れる交流の場としての活用を図る。	地域交流センターを整備したことで、一年を通して交流できる場として活用されている。また、狭かった連絡道路に待避所を設置することで、より多くの人に安心して天童高原を訪れていただける整備を行うことができた。	・一年を通して交流できる場としての整備が整い、イベントなども以前より多く開催されるようになったが、天童高原の良さをより多くの人に知ってもらい、何度でも訪れてもらえるような仕掛けづくりが必要である。	

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	遊びの広場の施設のさらなる活用と、良好な環境の維持	市民が自然に触れ合える機会を増やし、より心身ともに充実した時間を過ごせるような環境整備および維持管理を行う。	・遊びの広場の施設の維持管理、補修更新 ・遊びの広場を利用したイベントの開催
	自然体験施設のさらなる活用と、良好な環境の維持	キャンプ場に訪れた利用者がまた利用したくなるような環境整備および維持管理を行う。	・自然体験施設の維持管理、補修更新 ・キャンプ場の利用案内のPR
	一年を通して交流が絶えないような魅力溢れる場を維持する。	四季それぞれに天童高原の自然を感じられる、体験型のイベントを開催するなどして、交流が絶えないような取り組みを行う。	・四季それぞれ(もしくは毎月)において、体験型イベントの開催 ・各イベントのPR、情報発信

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	天童高原の新しく整備された施設の認知度が低い	天童高原で行われているイベントの告知やキャンプ場、スキー場の利用案内を市内はもちろん、市外の人にも広く周知を行い、できるだけ多くの人に利用してもらえるように積極的にアピールを行う。	・主要観光施設、交通拠点へのPRポスター等の設置 ・メディアCMやローカル番組でのPR ・HPでの広告、SNSを利用した情報発信
	未活用の地域資源の有効活用	まだ有効に活用されていない自然環境を有効に活用する取り組みを行い、天童高原を訪れた人により多くの自然環境にふれあってもらおう。	・散策マップの作成、散策路の整備 ・天童高原からの良好な景観を活かした展望広場等のビューポイントの整備
	天童高原の良さをより多くの人に知ってもらい、何度でも訪れてもらえるような仕掛けづくりを図る	天童市民だけでなく、市外からの観光客に対しても広く天童高原の魅力をPRし、また天童高原に訪れたいと思えるような取り組みを行う。	・自然を生かしたイベントの開催 ・イベントの内容もトレンドに合わせて随時リニューアルする ・天童温泉など他の観光施設との連携した取り組みを行う

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	キャンプ場周辺利用者の減少率	%	-18.6%	H18-22	0.0%	H24-28	確定 ●	83.7%	○	あり	-	-	
							見込み			なし			
指標2	スキー場利用者の減少率	%	-10.9%	H18-22	-1.0%	H24-28	確定 ●	-12.6%	×	あり	平成30年4月	・H29年度の年間利用者数を計測し、H25年度からの減少率を算出する。	
							見込み ●			なし ●			
指標3	天童市民の天童高原満足度	%	56.3%	H24	60.7%	H28	確定 ●	61.2%	○	あり	-	-	
							見込み			なし			
その他の数値指標1	天童高原イベント入れ込み客数	人	8100	H24			確定 ●	12,198		あり	-	-	
その他の数値指標2	キャンプ場・スキー場利用者の減少率	%	-13.8%	H18-22			確定 ●	7.6%		あり	-	-	
							見込み			なし			
その他の数値指標3	スキー場利用者の減少率(社会資本総合整備計画における数値指標目標)	%	-10.9%	H18-22	0.0%	H24-28	確定 ●	-12.6%	×	あり	平成30年4月	・H29年度の年間利用者数を計測し、H25年度からの減少率を算出する。	
							見込み ●			なし ●			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標1「キャンプ場周辺利用者数の減少率」は成果が上がっており、目標を達成することができた。	不確定な要素の影響で年度ごとの変動が大きいものを数値目標にする場合は、単年度の数値を基準にするのはリスクが大きいため、複数年度の平均値を基準にするなどの検討を行う。
	うまくいかなかった点	指標2「スキー場利用者の減少率」は、目標年度の初年度である平成24年度の利用者数が、気象状況に恵まれ予想以上に多かったため、ハードルの高いものとなってしまった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	各指標とも事業内容に整合した指標を設定することができた。	地区のまちづくり目標を十分反映させた数値目標とすることで事業との整合性を図る。
	うまくいかなかった点	特になし。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	アンケート調査を実施したことで、市民からの様々な意見・要望を聞くことができた。	NPO法人やまちづくり活動団体との連携を強化し、住民参画のまちづくりを図る。また、HPでの広告、SNSを利用した情報発信などを積極的に行う。
	うまくいかなかった点	天童高原を整備したことを知らない市民が多く、認知度を高めるために積極的に情報発信を行えばよかった。また、市民から意見を聞くだけでなく、それを活かした取組みや、まちづくりに参加できる体制等があればよかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	常に事業の進捗を把握し、市民参加の懇談会等を開催することにより、計画の変更・見直し等を行いながら事業を円滑に進めることができた。	常に事業進捗状況を把握することで、円滑な事業実施を図る
	うまくいかなかった点	中間年度等にモニタリングを実施することで、途中の効果を確認し、事業内容に活かすこともできた。	
その他	うまくいった点	特になし。	
	うまくいかなかった点	特になし。	

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

本市においては、平成29年度に天童古城(第2期)地区、平成30年度に芳賀地区の事後評価を予定している。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事業実施を図りたい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	天童市ホームページ掲載	平成29年9月1日～15日	平成29年9月1日～15日	担当者への、書面、FAX、電子メール	産業立地室 産業立地係 (都市再生整備 計画担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に天童市ホームページ、 窓口閲覧にて原案を公表して いる旨を掲載	平成29年9月1日発行	平成29年9月1日～15日		
説明会・ワークショップ					
その他	窓口閲覧(天童市経済部産業 立地室)	平成29年9月1日～15日	平成29年9月1日～15日		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	相羽 康郎 (東北芸術工科大学デザイン工学部教授)	第1回 平成29年 10月12日	産業立地室産業立地係 (都市再生整備計画事業 担当課)	天童市社会資本総合整備計画(天童高原地区都市再生整備計画)評価委員会設置要綱	独自に設置 (地区内の各種団体代表者に学識経験者を含めた構成)
その他の委員	天童市観光物産協会専務理事 林 崇氏 天童市スキー連盟会長 水戸 芳美 特定非営利活動法人NPO天童高原理事長 工藤 一夫 天童市PTA連合会会長 矢吹 栄修				

審議事項		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特になし
	成果の評価	・事業によって天童高原はすごく変わったと実感している。スキー教室に参加した子どももとても喜んでいる。 ・グリーンシーズンはすごく良かった。今まではゼロに近かったが、たくさんの人が来てくれるようになった。
	実施過程の評価	特になし
	効果発現要因の整理	・スキー場利用者数のカウントはリフトの乗客数や、キッズランドなどの利用者数などだが、ある程度しか把握されていない。それらを含めた正確な数字を把握する必要がある。 ・スキー場の利用者数が下がっているのは、天候が悪く営業日数が少ないことが原因であり、スキー利用者数が減少しているとは言えないのではないか。
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・管理する施設やイベント等の事業が増えてきており、指定管理者(NPO法人)で対応しきれない。今後継続及び拡大をしていくには、市から指定管理者(NPO法人)への更なるバックアップが必要である。 ・PRについて、市報などより子ども関係のチラシとかの方がよく見るので、学童やスポ少など、子どもサイドからアプローチをした方がよいのではないかと。 ・天童高原だけでなく、周辺の田麦野地域との連携が必要である。(天留湖とリンクしたバス釣りツアーや、スポ少の合宿で「高原の里交流施設ぼんぼこ」とのリンク等) ・インバウンドなど観光分野との連携も必要であり、外国人や都会の人達にとっては、スキー場より雪を活用した取組みの方が可能性があるのではないかと。 ・スキーインストラクターが好評であるが、人手が少ない。インストラクターが増えれば、学校の負担が少なくなるのでスキー教室が増える可能性がある。 ・人を集めるには何が必要か、また来たいと思う環境づくりが必要である。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし	特になし

社会資本総合整備計画 事後評価シート

天童高原地区

平成29年9月

山形県天童市

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成 年 月 日

計画の名称	天童高原地区都市再生整備計画									
計画の期間	平成24年度～平成28年度 (5年間)	交付対象	山形県天童市							
計画の目標	天童高原の豊かな自然環境を保全しつつ、資源や特色を生かしながら、積極的に交流・連携を図り、新たな魅力に満ちた市民の憩いの場、健康づくりの場、そして教育の場として整備し、賑わいのあるまちづくりを行う。									
計画の成果目標 (定量的指標)	1 天童高原の夏シーズンの交流人口の拡大を表す指標として、減少傾向にあるキャンプ場周辺利用者数の改善を見込む (-18.6%→0%) 2 天童高原の冬シーズンの交流人口の拡大を表す指標として、減少傾向にあるスキー場利用者数の改善を見込む (-10.9%→0%) 3 天童高原の魅力の向上、利用者の充実感に繋がる指標として、天童市民の天童高原に対する満足度の向上を見込む (56.3%→60.7%)									
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値 (H24当初) 中間目標値 (H26末) 最終目標値 (H28末) 備考						
1 計画期間 (H24～H28) におけるキャンプ場周辺利用者を把握し減少率を算定する。 (算定式) H18～H22を基準年度、H24～H28を目標年度とし、それぞれ5年間での減少率を算定する。 [現況値 = H22 / H18][目標値 = H28 / H24]				-18.6%	-	0.0%				
2 計画期間 (H24～H28) におけるスキー場利用者を把握し減少率を算定する。 (算定式) H18～H22を基準年度、H24～H28を目標年度とし、それぞれ5年間での減少率を算定する。 [現況値 = H22 / H18][目標値 = H28 / H24]				-10.9%	-	0.0%				
3 市民へのアンケート調査を行い天童高原満足度を把握する。 (算定式) ”天童高原の満足度” という設問に対し、”訪れたい” と回答した人数の割合を算定する。 [回答: 訪れたい / 有効回答数]				56.3%	-	60.7%				
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	500 百万円	A	467 百万円	B	0 百万円	C	33 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A + B + C)	6.6%

事後評価 (中間評価)

○事後評価 (中間評価) の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
庁内における事後評価検討委員会において、数値目標の達成状況と事業効果の発言状況の検証を行った。 また、有識者による事業効果の分析を行うことにより、今後の目標と課題を整理した。	平成29年度
	公表の方法
	ホームページによる公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
1-A-1	都市再生	一般	天童市	直接	天童市	天童高原地区都市再生整備計画事業	公園、地域交流センター等 232ha	天童市						467	
合計											467				
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-B-1															
合計											0				
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			
1-B-1															
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
									H22	H23	H24	H25	H26		
1-C-1	施設整備	一般	天童市	直接	天童市	圧雪車整備	圧雪車の購入	天童市						33	
合計											33				
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考			
1-C-1	冬季の市民交流施設における安全性の確保														

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

キャンプ場とスキー場の利用者数を合計した年間の利用者数を見ると、従前値（H18-H22）では-13.8%と減少傾向にあったが、評価値（H24-H28）では7.6%と増加傾向に転じている。指標②では気象条件の影響もあり、スキー場の利用者だけでは増加とはならなかったが、年間を通した合計の利用者数は確実に増えており、整備の効果が表れていると言える。

II 定量的指標の達成状況	指標① (キャンプ場利用者数)	最終目標値	0.0%	目標値と実績値 に差が出た要因	キャンプ場の整備により周辺利用者数が大幅に増えて、目標の達成となった。整備前は年々利用者数が減少していたが、天童高原を整備したことによりキャンプ場としての魅力が増え、利用者増加につながったものと考えられる。
		最終実績値	83.7%		
	指標② (スキー場利用者数)	最終目標値	0.0%	目標値と実績値 に差が出た要因	評価値初年度（平成24年度）の利用者が多かったため、目標値のハードルが高いものとなってしまったことに加え、気象条件の影響を受けたこともあり、利用者数が伸びず、目標値の達成とはならなかった。一方で、事業期間の年間平均利用者数は増加しており、一定の整備効果が表れていると言える。
		最終実績値	-12.6%		
	指標③ (満足度調査)	最終目標値	60.7%	目標値と実績値 に差が出た要因	天童高原の整備に伴い、天童高原を訪れたいと思う市民が増え、指標目標の達成となった。市民にとって以前より魅力を感じるような天童高原になったことで、目標の達成につながったと考えられる。アンケート実施時期以降の整備箇所もあり、全ての整備が完了すれば満足度はさらに上昇するものと思われる。
		最終実績値	61.2%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況	その他指標①：天童高原イベント入れ込み客数			平成28年度の集計結果では、イベント入れ込み客数は平成24年度から4,098人増え、12,198人となっている。	
	その他指標②：キャンプ場・スキー場利用者の減少率			平成18年度から平成22年のキャンプ場・スキー場利用者の減少率は-13.8%で、平成24年度から平成28年度のキャンプ場・スキー場利用者の減少率は7.6%であった。	

3. 特記事項（今後の方針等）

--

(参考図面)

計画の名称	天童高原地区都市再生整備計画		交付対象	山形県天童市
計画の期間	平成24年度 ~ 平成28年度 (5年間)			



□提案事業
事業活用調査
・事業効果分析

■基幹事業
公園
・休憩施設整備 50m²

■基幹事業
高次都市施設
(地域交流センター)
・整備 A=1,000m²



■関連事業
・天童高原環境整備事業

■関連事業
・どうぶつふれあい広場整備

■基幹事業
道路
・連絡道路整備 L=約1,000m
(待避所整備2箇所)

■基幹事業
地域生活基盤施設
・ビューポイント案内板 3箇所

■関連事業
・散策路整備

■提案事業
地域創造支援事業
休憩施設整備

■基幹事業
公園
・自然体験施設整備
・遊びの広場整備

